

令和元年度学校評価の報告（概要版）

学校教育法等に規定される学校評価を実施したので、当校の学校評価の方針(平成30年3月)に従い、自己評価、自己点検、個別行事総括の概要を公表します。
なお、詳細につきましては、令和元年度学校評価報告書をご覧ください。

<学校評価の目的>

学校評価は、教育活動、教育環境、学校経営の課題を発見し、その解決を目的としている。このため、評価行為は、教育活動、教育環境、学校経営の課題を発見するために実施し、評価行為によって発見された課題は、解決方法を検討し、次の機会には実行し、その結果を検証することとしており、評価から検証までを一連の過程として実施するものである。

<自己評価>

1 評価の方法

(1) 評価者

評価項目ごとに、副学校長以下12人の職員のうちから関係職員を選び、評価者とした。

(2) 評点

1) 評価項目の達成状況

評価項目の達成状況を次の3段階に評価した。

- ・ 達成(評価項目の求めるレベルを達成している、現在の達成度を維持する)
- ・ 取り組み中(課題の解決に取り組んでいる、達成のレベルに到達していない)
- ・ 不十分(取り組みが不十分、未着手)

2) 評価項目の適否

評価項目が適切であるかを次の2段階に評価した。

- ・ 適(適切な評価項目)
- ・ 否(不適切、不要、評価不能、将来に亘って達成が困難な評価項目)

2 評価の結果

(1)学校評価自己評価表(評価項目の達成状況)

項目	延評価者数	延評価者数の内訳		評価件数分布(構成比)			無回答の割合
		評価件数	無回答	達成	取組中	不十分	
1 教育理念・目的・目標	48	48		88.0%	12.0%		
2 カリキュラム	72	72		78.0%	22.0%		
3 授業課程	99	99		73.0%	27.0%		
4 実習指導体制	108	108		77.9%	22.1%		
5 学校組織・運営	195	195		66.8%	33.2%		
6 教育環境	81	81		87.6%	11.4%	1%	
7 学修・進路	36	36		86.3%	13.7%		
8 学生生活への支援	60	60		85.0%	15.0%		
9 地域との連携	24	24		33.5%	58.5%	8%	
合計	723	723		75.1%	23.9%	1%	

(2)学校評価自己評価表(評価項目の適否)

項目	延評価者数	延評価者数の内訳		評価件数分布(構成比)		無回答の割合
		評価件数	無回答	適	否	
1 教育理念・目的・目標	48	48		100%		
2 カリキュラム	72	72		100%		
3 授業課程	99	99		100%		
4 実習指導体制	108	108		100%		
5 学校組織・運営	195	195		99.0%	1%	
6 教育環境	81	81		98.0%	2%	
7 学修・進路	36	36		100%		
8 学生生活への支援	60	60		98.0%	2%	
9 地域との連携	24	24		100%		
合計	723	723		99.0%	1%	

※延評価者数とは、評価項目を担当した職員の延数

※評価件数分布は、評価件数に対する各評価の構成比

※無回答の割合は、延評価者数に対する割合

(3)コメント

- ・ 主なコメント … 不十分を除く達成・取組中19件中の9件

項目	評価	コメント
4 実習指導体制	達成	課題のインフルエンザ対応は、主たる施設と基本的考え方を確認した。
7 学修・進路	達成	基礎学力に低下傾向があり、教員側の負担が増している。
3 授業課程	取組中	学生のコメントが少なく、回収率も低い。学生評価の十分な把握ができていない。
4 実習指導体制	取組中	統合実習はどうかと考える(一部)。
5 学校組織・運営	取組中	地域のボランティア活動に参加し、もっと地域に情報提供をする。
5 学校組織・運営	取組中	土岐市と広域の2重構造がある。
5 学校組織・運営	取組中	電子文書は今年度着手、管理・保管等を開始した。
5 学校組織・運営	取組中	今回、学校組織の編成と閉校案が提示された。
7 学修・進路	取組中	三年担任にまかせっぱなしで申し訳ない。

- ・ うち、不十分又は否と評価されたコメント … 7件中の7件

6 教育環境	不十分	アクションカードが作成できていない。破散防止フィルムの検討を。
9 地域との連携	不十分	学生が働いている為、教科外の活動は難しいと考える。
9 地域との連携	不十分	3市取組イベントなどへの参加など、学校としてできることを模索すると良い。
5 学校組織・運営	否	現在の業務で手一杯なようで、研修とかムリそう。
6 教育環境	否	統合実習中の学生のインシデントがレポートなしになった??
6 教育環境	否	机・ロッカーなど自分が使うものだから「ちゃんとするよ」教えたいと思う。
8 学生生活への支援	否	時間的に無理と思われる。

- ・ 評価表の評価項目以外に、解決すべき課題、検討すべき課題とされたコメント

学校の存続について問合せがある。早急に、公開できるようにしてほしい。

<自己点検>

1 評価の方法

(1) 評価者

点検項目ごとに、その項目に精通した教職員・精通した教職員が評価し、教務主任が総括した。

(2) 評価表

看護師養成所(2年課程)自己点検表(岐阜県、平成27年)を用いた。

(3) 評点

適、否、該当なしの3段階に評価した。

2 評価の結果

(1)看護師養成所(2年課程) 自己点検表

点検項目	項目数	判定数			判定(割合)		
		適	否	該当なし	適	否	該当なし
1 学生に関する事項	11	9	1	1	82%	9%	9%
2 施設設備等に関する事項	107	101		6	94%		6%
3 教員等に関する事項	23	21	1	1	92%	4%	4%
4 教育に関する事項	16	15	1		94%	6%	
5 実習に関する事項	31	30	1		97%	3%	
6 変更承認及びその他事項	3	3			100%		
7 その他	8	8			100%		
合計	199	187	4	8	94%	2%	4%

(2)コメント

- ・否と判定した点検項目の判定理由及び改善

1 学生に関する事項	社会人入試は、2年課程であり配慮しておらず。
3 教員等に関する事項	実習指導教員は確保していない。実習施設の協力のもと、専任教員は規定時間内で実習指導を行っている。
4 教育に関する事項	小児看護学実習、母性看護学実習および在宅看護論実習はそれぞれ2.5時間、3時間、3時間の学内実習を設けている。同じ学習内容を複数施設でわかれて行うことによる学びの共有の場、あるいは身体侵襲の強い看護技術を実習直前に確認する場としている。
5 実習に関する事項	病院以外の実習が全体の33.4%を占めるのは、母性看護学実習1.93単位が診療所での実習であることが主な要因である。実習環境としては、病院実習に準じて行っているが、病院実習時間を増やすよう検討を続ける。昨年よりわずか0.1%ではあるが病院実習が増えている。

<個別行事総括>

1 評価の方法

1 評価の方法

- (1) 評価者 個別行事の担当者
- (2) 評価時期 主要学校行事が完了する都度
- (3) 総括の内容 行事の概要・評価の外、反省、問題点、要改善点、課題等を記載した。
- (4) 総括の報告 担当者が関係会議・委員会に報告した。

2 総括を作成した個別行事

行事名	期日	報告(会議の名称)
(1) 就職説明会	平成31年4月18日	5月職員会議
(2) オープンキャンパス	令和1年7月27日	8月及び9月職員会議
(3) 防災訓練	令和1年10月9日、11日	11月職員会議
(4) 教育研修	令和1年10月19日	教務会議、3月職員会議
(5) 入学試験	令和1年11月20日 ～令和2年3月3日	第5回運営委員会

<課題の解決>

評価項目で「不十分」「否」、個別行事総括で「問題点・課題」とした事項は、学校評価委員会で重要な課題とそれ以外の課題に区分して処理するなど、組織的対応に努めた。

(1) 重要な課題

重要な課題ごとに、課題シートを起票し、課題解決の方法、日程、期限、担当者を明示する。

(2) 重要な課題以外の課題

重要な課題以外の課題を整理し、教職員に示す。

個別行事の総括結果は、令和2年度の行事企画に反映させる。

(3) 課題解決の検証

重要な課題の解決状況は、必要に応じて中間評価し、最終的に課題ごとに設定した期限到来時に検証する。

重要な課題以外の課題の解決状況は、次に到来する自己評価、自己点検、個別行事総括で検証する。